

令和7年度第4回三宅町教育委員会 会議録

開催日 令和7年10月7日（火）
午後2時00分～
場 所 三宅町役場 第1会議室

出席委員 鈴木みどり・甲村真理子・小坂井佳代・福島哲也・大泉志保
欠席委員 なし
事務局等 出口局長・中井課長・日置指導主事・山北
傍聴者 2名

・教育長開会挨拶

10月は運動会が続く。行事を見れば学校のことがわかってくる。

先日、小学校で運動会の合同練習があり、3年目の先生が仕切っていた。先生の一言目は「皆さんにはこの運動会をどんな運動会にしたいですか？」であった。騒いでいた子どもたちは静まりかえり、みんなで考えていた。

9月12日に福祉文教委員会が開催され、予算要求していたものを承認いただいた。

議員の皆さんからは、たくさん質問をいただいている。教育に対し非常に関心が深まっているということだ。

三宅町議会では、文化ホールのトイレについて、教育大綱、地域人権学習事業の学習支援について、部活動の地域移行について、熱中症対策について、学校の建て替えについてなど。式中組合議会では、部活動の地域移行や体育館設備の改修、自由進度学習の進捗と両町の今後の教育方針について、式下中の在り方について、事務局が2年ごとに交代する運営体制について、不登校対策についてなどの質問があがっている。

・議題

【議案】

1. 「未来の学校プロジェクト」の今後の方向性について

⇒教育長より説明。

予算要求が可決された。今年度の予算の使い方について話していきたい。

事務局だけでは人数が足りず、プロジェクトチームを作りたい。

・高野 雅子 氏（PRマネージャー）

グラフィックデザイナーで、教育大綱の試作版を作成してもらった。

わかりやすい資料、見やすい資料の作成をお願いしたい。

・中村 篤史 氏（教育アドバイザー）

一級建築士で、多くの学校建築に携わってきた。学校を設計するだけでなく、理念づくりから携わりたいという思いで、会社を退職された。

・宮北 純宏 氏（教育アドバイザー、CS会長）

10月28日にはプロポーザルを実施し、プロジェクトマネージャーを選定する。この方にタウンミーティング運営をお願いしたい。プロジェクトマネージャーが決まれば、すぐにチームミーティングを開催する。

・基本構想に盛り込む内容

・住民から意見を引き出すためのワークショップの内容

・子どもたちの意見をどう取り入れるか

ワークショップでは教育大綱の確認と対話を重ねていきたい。三宅の学校はどうあるべきか。どんな機能があればいいか。アンケートも行っていく。

11～3月で2,000人の意見を集めたい。基本構想策定の第一歩になる。

小坂井委員：

地域住民の方のタウンミーティングの参加や集客することの難しさを感じている。教育に対して、呼び込めるか不安がある。教育委員会としてできることはあるか。

教育長：

教育フォーラムも町外からの参加者が多いが、今回はそういうわけにはいかない。広報だけでは難しい。子どもから動けたらと思っている。親に伝わり、親も参加したいと思ってもらいたい。

小坂井委員：

狙い撃ちで「来てくれへん？」と言えば、行こうかなと思うかもしれない。町内の団体や自治会に声かけするのもいい。

教育長：

自治会長会でも周知する。会場もMiMoだけでなく公民館なども考えたい。

福島委員：

三宅だけでなく全国でもそうだが、人口構成を見ると高齢者が多い。

在住者だけでなく、国内や海外で活躍されている三宅町出身者に協力してもらうのもいいと思った。

どれだけ本気の人たちが集まるかが大事だと思う。成果が出るまで何十年とかかる。随分先にならないとわからないことで、当事者意識が欠けてしまう。

生まれ故郷を嫌いになることはないと思う。そんな人たちともチームを作りながら、本気の人が1人でも増えてほしい。

教育長：

関係人口を大事にするということ。

甲村委員：

住民がどこまで関心を持っているのか。実感では少ないとと思う。運営側と来ている側に温度差がある。三宅町がどんな問題を抱え、どういう学校をつくりたいか、熱い思いを住民に伝えることから始めないといけない。

各団体に周知して参加してもらって、なぜ来たのって思う人も多いと思う。まずはこのプロジェクトをみんなで考えていこうというところから始める方がいい。

教育長：

これから約5ヶ月はその温度差を埋める作業になると思う。学校を建てかえるすごいチャンスが来たということを伝えていく。

甲村委員：

自分たちの学校をどうしたいか、子ども目線が大事。私たちが気づかないことを教えてもらえる。子どもだけのチームを作ってもいい。子どもたちにとってもいい経験になると思う。

鈴木委員：

自分にとって関係ないことは、当事者と考えることが難しい。どんな学校をつくっていきたいかと聞かれても、普段考えていない人にとってはハードルが高い。

場を持つことは大事。やっぱり子どもから仕掛けていくのがいいと思う。自分ごとに捉えやすい。子どもとの対話を中心に持つていければ。

甲村委員：

コミュニティの中核になる学校をつくっていきましょうという呼びかけを。子どもがお母さんやおばあちゃんに話すことから地域に広がつていけば理想

だと思う。

小坂井委員：

子どもや孫がいない家庭も多いと感じている。学校は関係ないと思っている。今の学校はこんな感じですよと公開したり交流の場を設定して、自分は関係ないという思いを取り扱う。

教育長：

まとめると、子どもから始める、CSのことを落とし込む、今の学校を知つてもらう。5ヶ月でできることをやっていきたい。

福島委員：

情報の発信量が大事。ニュースを見れば知ることはできるが、見なくても知れるよう発信することが必要。子どもたちに頼ることのリスクヘッジとして、情報を町民に届けることが大事。

子どもがいない家庭や高齢者だけの世帯を巻き込むなら、子どもたちが各家庭をインタビューに訪問するとか。

教育長：

教育大綱を作成したとき、5・6年生に授業をした。熱量を語ることは大事だ。

甲村委員：

子どもたちがしっかり社会で生きる力を身に付ける。先生も頑張っていると思うが、すごく難しいことだと思う。

わかってもらうのは難しいと諦めるのではなく、地域の方に理解してもらうため、細かなことでも発信していくこと。

【報告】

1. 教育委員会事務局の異動について

(資料1)

⇒出口局長より報告。

2. 学校視察について

- ・想青学園
- ・常石とともに学園

事務局で視察に行った。想青学園には川西町事務局が、常石とともに学園には議員が同行した。

出口局長：

想青学園は建物が新しい。窓も大きく、廊下も広い。小学生を前期、中学生を後期という呼び方をしている。交流できる場、空間を設置していた。

義務教育学校なので校長は1人だけ。

小6、中1の区切りが曖昧。終了式はあるが卒業式はない。9年制のため、6年生にリーダー性を持たせることが難しい。仕掛け作りはしているが課題感を持っている校長が話していた。

常石とともに学園はイエナプラン教育を導入し、異年齢の子たちが一緒に学んでいる。1～3年生が1つのクラス、4～6年生が1つのクラスで授業を受けている。机ではなく、方々に座って話したり、グループになり自由に学んでいた。異なる学年で共通のものがあれば一緒に授業も行っていた。集団で自由に遊んでいるのではなく、それぞれ工夫しながら課題に取り組んでいたことが印象に残った。

教育長：

少人数で複数学級ができなくなるのは目に見えている。縦割りにして異学年で交流するのも一つだと思う。

義務教育学校は委員の皆さんとも視察に行きたい。小中一貫だが、わざわざ義務教育学校にしていない学校もある。小6と中1の精神的な段差を埋める必要はない。なくすべき段差と、残すべき段差がある。今後、研究が必要だと思う。

福島委員：

東大阪の学校に勤めていた。段差のことは聞いたことがある。1～9年生だが校舎が別の学校もある。必要性、有効性を考えていく必要がある。

教育長：

一つの校舎にすることで、先生の交流が増えるのはメリットだ。

3. 令和7年度全国学力・学習状況調査結果の公表について (資料2)

⇒日置指導主事より報告。

前回、問題を解いていただいた。今回は小学校からの分析が提出された。最終的にホームページで公表させてもらう。

小坂井委員：

基礎的な部分が弱いと感じた。

幼小の連携を重視し、未就学児へ教育的アプローチが可能なのか教えてほしい。

教育長：

義務教育と幼児教育では管轄が分かれており、施策の違いはあるが、連携していくことはできる。夏休みには小学校の先生に幼稚園で幼児教育を体験する研修も行った。1年生のスタートアップをどうすればいいか困ることがあり、幼稚園を見に行くことでわかることがある。管轄が違うことの難しさはある。

小坂井委員：

じっと座って聞くこと大事なこと。幼少期から体幹をしっかり育てることを大事にしている。それがいずれ学校教育に繋がっていく。

三宅幼稚園は保育園型の幼稚園だが、幼稚園型の教育の取り組みを取り入れていくことをアプローチできないか。

教育長：

こちらから幼稚園にダイレクトで発信していくことは難しいが、健康子ども課を交えて話していくことはできる。

甲村委員：

保護者にすれば認定こども園になり管轄が変わることで、教育が変わってしまうことは実感している。

小坂井委員：

保育と教育は別物。過ごす時間により中身が全く違っている。先生が目的としていることも違う。三宅幼稚園は教育型が弱いと思う。

甲村委員：

小学校だけの問題ではないと思う。家庭教育の希薄さ、基礎学力の個人差もある。何に一番困っているか、わかっていない子もこれだけ居るということ。基礎ができていないのはなぜか。勉強するという態度を掘り下げていったら、語彙数、表現、心の充実ができているか。

町全体でフォローし、困っている子を減らしていってほしい。

教育長：

その通りだと思うが、教育委員会でそこまで手を広げていくことは難しい。健康子ども課に訴え続け、幼稚園にこの学力結果を共有していければ。

小坂井委員：

幼児園の教員不足の声を聞いている。幼小一体化することでコミュニケーションは活性化していくのか。

教育長：

一体化することで、先生方の情報交換が生まれる。

鈴木委員：

認定こども園になったら中身が変わったというのはどのような感じか。

甲村委員：

以前は教育的だった。文科省管轄でPTAも入っていた。

小坂井委員：

カリキュラムがあり、体系立てて教えていくのが幼稚園。保育園はそこまで細かくない。

甲村委員：

保育メインでもいい。変わったことでよかったですところがなくなってしまうのはもったいないと保護者の感覚で思った。

【事務連絡】

1. その他

・経過報告及び当面の日程

(資料3)

*次回 教育委員会会議の日程について

令和7年11月6日(木) 学校園訪問

9時15分～12時25分頃(9時10分 幼児園集合)

・教育長閉会挨拶